

社会学同全国通達

社会主義学生同盟
全国委員会

東京
2971
7886

☆全学連大会の総括の中心点について

☆国際反帝反戦集会の総括の中心点について

☆情勢と方針について

☆学園斗争について

☆統一戦線の原則と現局面の党派戦術について

☆9月の組織活動について

I 全学連大会の総括の中心点について

我々は、全学連大会の総括を統一戦線戦術の問是から始めた。我々は、統一戦線戦術を愛形成、階級形成、党派斗争の結合環として位置づける。それは、大衆斗争の中に戦術戦術を提起し、大衆の自覚発生性に待機し、それを固定化する他党派の戦術戦術を批判し（階級斗争）、他党派解体、それを通じて大衆の階級形成を推し進め、統一戦線をその最良の形態に力奪取の形態たるシヤエトへと導くものである。従って、全学連大会の総括を統一戦線戦術の問是から開始した歩みは、当然にも、現局面の大衆の自覚発生性の一つの重要な表現、以保反対の基地斗争を如何に戦術戦術的に指導するか、また、この自然発生性に待機し、これを固定化し以保し帝国内の国際反革命同盟粉碎を戦略にまつり上げている党派（社共、中核、解放、ML、4トロ）に如何に党派斗争を展開していくのか、それは、主体的には、日帝打倒と以保し日米反革命同盟粉碎との連関を如何に把握するの

II 国際反戦集会の総括の中心点について

だが、ここではそこに深く立ち入ることはしないで、日帝打倒斗争と日米以保し国際反革命同盟粉碎斗争との連関という全学連大会が提起した最大の問題に解答しつつ、秋の斗争の方針を提起したい。

さて、8/3国際反戦集会の我々の主張（戦旗八月五日号）は、日帝打倒斗争と日米以保し反革命同盟粉碎斗争との關係を、主として、過渡期世界論に立脚して、次の如く主張している。

① 国際階級斗争の基調が、ベトナム反戦斗争から、以保反対斗争の立場、10/8斗争以降の日本反戦斗争の爆発、この自然発生性に待機し、これを固定化し以保し帝国内の国際反革命同盟粉碎を戦略にまつり上げている党派（社共、中核、解放、ML、4トロ）に如何に党派斗争を展開していくのか、それは、主体的には、日帝打倒と以保し日米反革命同盟粉碎との連関を如何に把握するの

このことは国際階級斗争を主導するヘゲモニーが、後進国人民武装解放斗争から、先進国コロネリアートの斗争へと転換しつつあることを意味する。

② 過渡期世界の攻撃型階級斗争の内実は何か？
それは、スターリン主義の一国社会主義論によって歪められていると言え、労働者国家の成立によって、国際階級斗争の結合と国際コロネリアートとして登場する条件が拡大していることを意味する。

さらに、このことは、BUNDが同大会路線の総括、この路線を形成する中で批判して来た若田理論（世界資本主義帝国主義世界体制）を、より深、観点から批判し直すことを要求する。

世界分割と世界戦争 には、プロレタリアート上層部との同盟社会排外主義を形成せず、小ブル、ルンペン等の危殆態と結合して、プロレタリアートの粉砕リファッシュムへ向むるをえない状況を作り出すのである。

そして、帝国主義は、未だ、マシムで勝利しえない段階では、国際階級闘争に対して、国際反革命同盟を強化しつつ、世界分割を展開する。

だから、国際反革命同盟粉砕闘争は、この国際反革命同盟に結集する国際ブルジョアジーに対する、国際プロレタリアートの対峙世界革命戦争へ具体化されるべき質を有している。しかしながら、世界革命戦争は、現実の民族国家を媒介しブルジョアジーの支配の突破、とりわけ、帝国主義に於ける自国帝国主義打倒、プロレタリア独裁の討いを通じてのみ実現するのである。か、同時に、国際反革命同盟粉砕の討いは、単に、自国帝国主義打倒、プロレタリア独裁へと収約し切れぬ広さ、世界革命戦争という質をもっているのである。

③ 国際反革命同盟粉砕闘争を、世界革命戦争、プロレタリア独裁へと転化する為には、従って、攻撃階級闘争、国際プロレタリアートとしての登場を可能とする運動組織形態を与えなくてはならない。それか、世界統一世界統一戦線、世界赤軍という系列である。

④ 国際反革命同盟の關係を明らかにしていかねばならぬ。この上に立って、秋の斗いの方針を確定していかなくてはならない。同時に、未だ不十分な諸点を明らかにしていかねばならない。

四 情勢と方針について

① 国際通貨体制、国際反革命同盟と帝国主義の不均等発展と世界分割について、まずEMF、国際通貨体制と、NATO、安保、国際反革命同盟の關係を明らかにしていかなくてはならない。そのことによって過渡期世界に於ける帝国主義の運動法則も明らかとなる。

EMF、NATO、安保は、米帝国主義の世界支配体制として構築されたことを確認しなくてはならない。

そして、経済的な、米帝国主義の世界支配体制が、EMF、国際通貨体制を生み出した条件は、重化学工業化である。産業構造の重化学工業化への転換を、米帝国主義は、30、40年代に於て実現したのであるが、帝国主義の市場分割戦の性格を変化させた。

先進国市場の比重が増大したのである。もちろん、このことは、後進国市場の意義が低下したことを意味しはしない、後進国市場は、(1)原料資源の供給、(2)低廉労働力の供給、(3)先進国の重化学工業化に対応した、軽工業、濃業の拡散地、(4)後進国経済開発に必要とした商品輸出等の市場として重要であり、かつ帝国主義の強さの一つの基礎でもある。だから、重化学工業化の進展は、帝国主義の運命の重大な条件として先進国市場、工業国貿易、水平結合を必要とする。従って、帝国主義は、先進国貿易の維持、拡大し世界市場の統一性と、先進国間競争の激化という相矛盾する二つの条件をつきつりわけている。かかる矛盾の解決は、圧倒的な重化学工業力、後進国市場の独占的支配を基礎とし、自国通貨を世界通貨として世界市場の統一性を維持する力量を持つての可能性がある。

米帝国主義は、30、40年代の先行した重化学工業化、中二大戦争スエズ動乱へ至る後進国市場の独占的支配の確立、EMF、国際通貨体制の構築を通して、このことを可能としたのである。米帝国主義の、政治的、軍事的な世界支配体制が、NATO、安保、国際反革命同盟の形成とその盟主たる形で完成した条件は、過渡期世界の攻撃階級闘争である。

米帝国主義は、中二大戦争直後の諸帝国主義国に於ける革命運動の高揚を抑制する中で諸帝国主義を結集し、安保、NATOを、結成した。そして、その圧倒的な経済的力を基礎に、極を頂点とする圧倒的な政治的、軍事的力量を蓄積し、この国際反革命同盟の盟主たることを通じて、諸帝国主義との世界分割戦に勝利したのである。

米帝国主義は、自国を軸とした国際通貨体制と国際反革命同盟を實現し、世界市場の統一と先進国間競争の勝利、同盟した国際反革命と世界分割戦の勝利という矛盾を統一した根柢は、一言までなく、30、40年代に於ける、諸帝国主義に先行した重化学工業化である。

だが、それだけではなく、経済力の自動的な結果として實現されたのでなく、中二大戦争による米帝と諸帝国主義の不均等な拡大と世界革命の敗北の結果である。

30、40年代に於ける帝国主義の不均等発展は、これと逆の結果をもたらした。米帝国主義は、経済的には停滞し、EMF、日帝は発展し、重化学工業化を實現した。

だがしかし、AEC、日本帝国主義は、自国を軸とした国際
通貨体制と国際反革命同盟を形成しうる経済的、政治的、
軍事的力量を未だ有していない。まして、米帝国主義の粉
砕と国際階級斗争の粉碎を通じて、このことを飛躍的に実
現しうる展望は、当面もたえない。

従って、EEC、日本帝国主義は、当面、IMF、安保

NATOを推進し、その枠内で、これの再編を通じて、先
進国戦争と世界分割戦を展開せざるを得ないのである。
そして、向題とすべきは、EMF、安保、NATOを維持
し、これのなし崩しの再編を通じて進行する帝国主義の矛
均等発展と世界分割の形成せざるを得ない矛盾と危機の性
格である。それは、米・EEC、日本間の先進国市場分割
戦の激化、独占の強化と金融寡頭制支配の強化、至者斗争
の激化として帝国主義相互関係が生みだしている。現在の危
機、あるいは、ベトナム人民武装解放斗争と中印への帝国
主義の侵略反革命戦争、これへの諸帝国主義の協力、反戦
斗争の高揚として帝国主義→後進国関係が生みだしている。
現在の危機とは、根本的に異なるものであり、未曽有のなま
と深さをもった危機として想定している。

分たしつづける。帝国主義世界分割が形成する危機について
この危機を思通すに、このように、我々は、帝国主義論（不
均等発展→世界分割）と過渡期世界論（労働者国家→国際
階級斗争の結合→国際反革命同盟）を、危機論において統
一している。同時に、始まりとしての革命の現存性をとりつ
つこの重大な条件を確認している。現在顕在化してい
る危機の延長線上に革命を展望する（左派）とこれの
戦略的「米帝追撃戦」、国際反革命同盟粉碎斗争の戦略
メカニズムを扱われているものもあり、あらわれつつの
もの。

この危機は、オニに、帝国主義相互関係、先進国市場分
割戦の中から形成されてくる。先進国市場分割戦は、
現在EECと米、米→日本を軸に展開されている。米帝
国主義は、EEC、日本への資本輸出→世界企業の建設
を推し進め、米、EEC、日本商品に対して、関税障壁
を軸とした「米」を台頭させている。逆に、EEC、日
本帝国主義は、米への商品輸出の拡大を意図し、米の資本
輸出→世界企業に対しては、独占の強化、金融力頭制支配
の強化をい進めつつ、保「米」を台頭させていくであらう

う。この先進国市場分割戦の形態上の差異は、三十一
十年代における米帝の重化重工業化、五十一六十年代に
あけるEEC、日帝の重化重工業化といつ資本蓄積段階
との差異、不内等発展に基利をもっている。ついでに女
ら、EEC、日帝の資本輸出は、后進国市場への分割入
むけられている。

先進国市場分割戦の激化は、現在経済斗争の激化をよ
びおこしている。ただ、同時に、それは今後、資本輸出
と商品輸出における米とEEC、日本間での、一オでの
自由化、他オでの保「米」の台頭化を促進させ、はしく
ず的にブロック化、世界市場の統一性の崩壊をもたらし
ておこさえない。これは資本蓄積段階の差異と結合する
ことを通じて、米帝国主義

資本をEEC、日帝に商品輸出市場の縮小、過剰
産を形成し、この経済危機、恐慌を媒介に、諸帝国主義
の経済的、政治的対立を極限にまでおしあげておこすであらう。
現在進行している先進国市場分割戦の激化は、独占の強
化、金融力頭制支配の強化を通して資金斗争、反合理化
斗争を高揚させている。ただ、これら経済斗争の激化は
総体としての資本主義の発展の中で、正統な重化重
工業部門、米、日、西独帝の軸に帝国主義的労働運動が
台頭してきた。この先進国市場分割戦の激化が生みだす
すにはおこさない新に矛盾と危機、恐慌は、おこる事態
の進行を根本的にくつかえず、軽工業部門や、英、仏、
伊等の弱々、没落帝国主義国における至者斗争の爆発、
国家間での非和解的対立は、この新に矛盾、危機
恐慌を媒介としてのみ普遍的な性格を帯び、また、米帝
重化重工業部門や、米、西独、日帝における至者斗争の
爆発、帝国主義的労働運動の崩壊の前兆なのである。

オニの危機は、帝国主義と后進国、労働者国家間の新
係の中から形成されてくる。EEC、日帝の対外膨張、
世界分割が一オを進行し、他オで后進国人民武装解放斗
争が拡大、ベトナム、チエコ問題を媒介として労働者国
家群の帝国主義への政治的、軍事的対抗の強化として進
行している。この中で、EEC、日本帝国主義は、一オマ
米を分離して、一オでの対外膨張、世界分割への志
向と、他オでのベトナム、中印問題における米帝の協力
として進めていた后進国人民武装解放斗争と、労働者国
家への侵略反革命戦争への志向と統一し、結合して、

る。それは親米反共主義と対米自立経済外交への、E.E.C.、日帝ブルジョアミーの分裂と解消し、E.E.C.、日帝が自由の生存、延命を欠けて、N.A.T.O.の抑圧と階級反革命同盟の強化と、右進階級人民武装解放斗争への侵略反革命戦争への向かうことを意味する。

それは、欧州にあつては、独帝がN.A.T.O.の強化、その主権の掌握を通して米帝を打ちこみつつ、東欧、ソ連への侵略反革命戦争へ突入していくことを意味する。この危機は、具体的には、東欧における経済的、政治的危機の成熟、自由化の要求の爆発、それへのソ連軍の介入を通して爆発するであろう。

アジアではどうだ。日帝の対外膨張、世界分割は、極東及びアジアへと拡大、南下している。アジア人民の武装解放斗争は、ベトナムからアジアへと拡大、北上している。この中で、日帝は日米関係を強化し、日米共同行動を通して、アジアへの侵略反革命戦争を準備している。その危機は、具体的に日韓口における階級斗争の激化、これへの北鮮、中印の援助に打ち出す日帝の侵略反革命戦争として想定

している。この中で、日帝は日米共同行動における主目的役割を、沖縄返還と前線基地化を通して実現していくであろう。六六年N.A.T.O.は七十周年祭は又なる米帝のみならず、独、日帝をもくくんだ、全世界的規模での、帝の主義侵略反革命戦争としてその開始をくくんだものとして存在しているのである。たがいの帝の主義による侵略反革命戦争は

広く深い政治危機ともなりかねない。右進階級人民武装解放斗争の拡大、劣弱者階級の帝の主義への政治的、軍事的対抗の強化は、当然にも帝の主義の口内における反戦斗争、反米、N.A.T.O.の反革命同盟粉砕斗争の飛躍的な拡大、高揚を作り出すであろう。又、同時にE.E.C.、日帝内における政治的危機の進行は、ベトナム反戦斗争の高揚とは根本的、質的に異つたものとして存在する。なぜならベトナム問題とは異つて、まさるべき侵略反革命戦争はE.E.C.、日帝の生命線であり、経済的利権の対外膨張と世界分割への、市民社会の深部から、膨大な参戦運動を形成せざるを得ないからである。その状態は、ベトナム問題をめぐる米階級斗争、それとより拡大した反戦斗争、左翼と反戦運動と右翼との激突が、全世界の帝の主義の口内を形成していることを意味している。七十年代には、又なる二様の危機、恐慌、経済危機、侵略反革命戦争、政治危機が拡大

し、結合し、全世界的規模で未曾有の広さと深さの危機を進行し、革命的危機を形成していく時代である。そしてそれはとりもたず、米、E.E.C.、日本間の帝の主義の不均等発展と世界分割と貫徹し、過渡期世界の劣弱者階級と階級斗争の結合と階級反革命同盟という構造を媒介に危機を必現させたものとして把握しようのである。

この危機と侵略反革命戦争の生じた革命的危機については、B.K.U.の回大路線は次の諸点の問題を提起している。それは極めて画期的であり、新しい理論であり、である。故に、旧い階級的な、歴史的な階級斗争が生みだした諸理論との関係で、諸種の混乱をもたらしたのである。この階級主義の不均等発展と世界分割と過渡期世界論の劣弱者階級と階級斗争の結合と階級反革命同盟を深め、提起した意義を確認しなくてはならない。同時にこの二つのどちらに立脚するの及ぶとめぐり、形成される極めと大きな路線上のブレがあった。このブレは帝の主義論と過渡期世界論の危機論として統一すること、すなわち恐慌と経済危機と侵略反革命戦争、政治危機が全世界的規模で生成し、結合し、革命的危機をつくりだしていくという見通しの中を解決されるべきこと

後進階級斗争は、帝国主義侵略反革命とこれと結合した民族ブルジョアジーのブルジョワに対する農民とプロレタリアートのブルジョワの武装解放斗争である。労働者国家は、スターリン主義の一口社会主義路線によつて歪められた過渡期社会として存在している。従つて過渡期社会である以上、階級斗争が継続している。この階級対立は、一口圣清建設の困難と帝国主義の侵略反革命の強化によつて、一挙的に顕在化する。そしてこのブルジョワに於ける階級対立は、根本的には帝国主義の存在によつて直接的には帝国主義の侵略反革命と規定されて、この圣清的政治的基の上で単一化し、この聖清の他々の環を形成し、帝国主義における階級的力関係に発展転化する。そして帝国主義に於ける階級的力関係は、労働者国家、後進に於ける階級的力関係を根本的に規定する。従つて、過渡期世界に於ける階級斗争の基本相造は労働者国家の成立を条件として、国際階級斗争が結合し、国際プロレタリアートとして登場し、これを帝国主義のロシアリアートが主導していくことである。。攻めきつた階級斗争の内裏とは、正しく、この国際プロレタリアートとしての登場である。だから国際反革命同盟が形成されるし、社会排外主義の形成を困難にし、ファシズムの成立が帝国主義の延命の唯一の道となり、帝国主義戦争の結果、スルジャアジーの民族国家による支配が圣清的政治的、軍事的に破壊される以前に、革命の条件が成熟したのである。

では、この過渡期世界に於ける階級斗争の基本相造と、メトナム反戦斗争とNATO・安保の国際反革命同盟粉碎斗争への国際階級斗争の前進は、一体どの様な関連があるか？。メトナム反戦斗争とは、後進国人民武装解放斗争の主導下に国際階級斗争が結合していたことを意味する。これがNATO・安保の国際反革命同盟粉碎斗争へと転化しつつあることは次のことを意味する。オ一、米帝国主義だけでなく、独、日帝国主義が不均等発展し、世界分割に乗り出し、侵略反革命を開始し、このことによつてNATO・安保の国際反革命同盟が強化され、甲世界のプロレタリアート人民の共同の打倒対象として登場してきたことを意味する。オ二、帝国主義の侵略反革命の強化によつて、これを基として国際階級斗争の二つの結合が進展したことを意味する。オ三、この国際階級斗争の結合の中で、ブルジョワに於ける階級的力関係が帝国主義に於ける階級的力関係に発展転化し、帝国主義の階級斗争が高揚していることを意味する。米日に於ける反戦斗争と黒人斗争の高揚、ハコ、日革命と、西独に於ける非常事態反対の学生プロレタリアートの闘い、日本に於ける10・8斗争以降の反戦斗争の爆発等は、これを証明している。オ四、従つて、メトナム反戦斗争から安保、NATOの国際反革命同盟粉碎斗争への国際階級斗争の発展は、それを主導するハコエニ、ハ後進国人民武装解放斗争から帝国主義のロシアリアートへ転換しつつあることを意味する。

では、帝国主義のロシアリアートに主導された国際階級斗争の結合とは、一体いかなる状況なのか、換言すれば、安保・NATOの国際反革命同盟粉碎斗争は、その内部はいかなる質を萌芽としてもち、いかなるものへの過渡なのか、向題とされなくてはならない。

それは世界革命斗争への過渡的形態なのである。世界革命斗争とは、国際反革命同盟に結集した国際ブルジョアジーに対する国際プロレタリアート労働者国家、後進国人民・帝国主義国プロレタリアートの結合の革命斗争を意味している。もちろん、現在

民主主義的シヨアジズムは、民族ヌルシヨアジ
ムとして、民族国家を媒介に支配している。
だから、国際マルシヨアジズムは、対国際的ロレタ
リアートという対立は、現に形成されている
ものではなく、実現されるべきものであり、
侵略反革命戦争と恐慌の中で形成される反戦
斗争と革命斗争の結合は、革命的な高揚が、帝国
主義的労働運動の解体を左の方向に推し進め、フ
アシズムの台頭に対する斗いを勝利的に進め
た時にのみ実現するのである。かかる革命
的急場のフアシズムに対する圧制へそれは三
重権力状況、ブルジョア独裁の進行として
現われるであろう。この全帝国主義的に於ける
進行のみが、帝国主義ヌルシヨアジズムを国際
反革命同盟に結束させ、これに対する国際的
ロレタリアートの革命戦争をつくりだすので
ある。

従って確保、NATOの国際反革命同盟粉
砕斗争は、帝国主義的に於ける反戦斗争と革
命斗争の結合、自己帝国主義打倒、ブルジョ
ア独裁の斗いを抜きにしては、世界革命戦
争に転化しないけれども、自己帝国主義打倒
、ブルジョア独裁の革命のみには決して
収約されることのない世界的な広さをもつ
ているのである。

だが、この国際的ロレタリアートとしての
現場、世界革命戦争という攻撃型階級斗争の
質は、それを発現し、具体化し、物質化する
国際的な、ブルジョアリアートの運動的組織形
態を必要とするのである。この運動的組織形
態をもたない限り、攻撃型階級斗争の自然発
生性に非脱し、自己帝国主義打倒、ブルジョ
ア独裁なき国際主義的コスモポリタニズム
に陥いる（それは、石進人民武装解放斗争
に立脚した周辺革命論、国際反革命同盟粉砕
の戦略化として登場している）。この革命
論に転落して、攻撃型階級斗争の自然発生
性と敵対するのである。我々の、春の路線上
の危機は、この後者であり、それは、8/3
国際反戦集会（ここに於いて、我々は国際的
ロレタリアートとしての運動的組織形態を提
起した）の意義を、はつきりと確認していな
かったことは遺憾である。

我々は8/3集会に於て、世界統一世界統
一戦線、世界赤軍を提起した。
この中で、世界統一戦線は、世界的に帝国
主義を打倒し、ブルジョア独裁の実現をめ

ざす反帝統一戦線として位置付けなくてはな
らない。それは、具体的には、確保、NATO
の国際反革命同盟粉砕斗争を国際階級斗争
（労働者国家、石進人民武装解放斗争、帝
国主義的ロレタリアート）の共闘の任務と
して設定し、帝国主義の侵略反革命戦争と対
決しつつ、世界革命戦争を実現するものとし
て存続する。

この統一戦線の中で果たすべき諸ヘゲモニー
の果たす役割は何々？帝国主義的ブルジョ
ア独裁の斗いは、正に、国際階級斗争の主導
的役割であり、斗いを、確保、NATO
の国際反革命同盟粉砕斗争より、世界革命戦
争へ、発展、転化する決定的な結節環である
。労働者国家の役割の中心は、世界革命戦争
を担う世界赤軍の中軸とならなくてはならな
い。石進人民武装解放斗争の役割は、その
斗いを拡大し、そのことを通して、米帝国主
義内部にだけなく、今後、侵略反革命を強
化してくるEEO、日本帝国主義内部にも自
己帝国主義政府と正面対決する反戦斗争を形
成していなくてはならない。

世界統一戦線は、帝国主義的ブルジョア独裁、
労働者国家、石進人民武装解放斗争を結合
し、この斗いを、世界革命戦争へ導くべき、
世界統一戦線を指すべきものとして、建設
されなくてはならない。

8/3国際反戦集会の意義は、や一に
10/21国際反戦斗争を、NATO、確保粉砕
、ブルジョア革命勝利へ、ブルジョア反戦斗争な
ら、国際反革命同盟粉砕斗争へ高め、世界革
命戦争へより一歩接近したことである。第二
は、来年三月に於ける世界共産主義者協会の
の発足を具体的に現実化し、世界党建設への
布石を獲得したことである。

5) 現実の労働者国家は、国際階級斗争を結合
させているのな？ 然らざるに於けるのな？
という論争について。

現在の労働者国家は、スウェーデン主義の一
国社会主義論の下に支配されている。このこ
とによって、逆に、国際的ロレタリアート
は分裂させられている。ところが、過渡期を
経て、国際的ロレタリアートとしての登場に対
しての決定的要因としているのである。もち

来年三月に於る世界共産主義者協会の発足を、具体的に現実化し世界党建設への布石を獲得したことである。

5 現実の労働者国家は、国際階級戦争を結尾させているのか？ 分裂させているのか？ という論争について。

現在の労働者国家は、スターリン主義の一口社会主義論の下に支配されている。このことにより逆に国際階級は分裂させられている。と云うが過渡期世界論—攻撃型階級戦争は、労働者国家の存在を、国際階級としての登場に對しての決定的な要因としているのである。

もちろん、この決定的な要因といふのは、次の意味に於てである。資本主義が世界市場を形成することによつて、プロレタリアートはその本質に於て、国際的、世界的な存在としてあり、世界市場を通じた資本主義の運動が、プロレタリアートのこの質を表現させ、形態を確り出す。それは、国民革命、民族国家を通じたマルジョアジーの階級支配の打倒、プロ独の實現、その用世界的拡大等へと発展していく。即ち、資本主義の世界性が、プロレタリアートの世界性の根拠であり、このプロレタリアートの世界性が、プロ独—世界革命へと発展していくのである。そしてレーニンの帝国主義論は、資本主義の帝国主義段階が、プロ独—世界革命の条件を、即、国際階級戦争の登場を成熟させることを明らかにし、具体的にこれに現実化する契機を、帝国主義戦争による、マルジョア階級支配、国民革命、民族国家の危機、経済的、政治的、軍事的解体といふ結果に求めたのである。従つて我々も、資本主義の世界性—プロレタリアートの世界性、さらに、資本主義の帝国主義段階—プロの世界的な発展条件の成熟といふ基礎をふまえた上で、過渡期世界

の帝国主義国家と労働者国家との並存する世界に於て、プロ独世界性の発現（プロ独、世界革命）の契機は何かを追求するのである。その追求が、帝国主義論（不均等発展—世界分割）と過渡期世界論（労働者国家—国際階級戦争の結尾—プロ独反革命同盟の危機論（世界階級危機）に於ける統一であり、それはまた、過渡期世界に於ける帝国主義論といつてもよいのである。

その結果、我々は、プロ独—世界革命の契機を、レーニンの如く帝国主義戦争とその結果たる階級戦争の高揚に於てなく、帝国主義の（構造には帝国主義的國家の）對外膨張過程に、プロ独反革命同盟の強化と主権の喪失

を通じた侵略反革命の強化と、先進国市場分割と恐慌を通じた抑圧の強化に、これに對する反戦戦争と経済戦争の結尾を求めるのである。丁度的、具体的条件の相違に基き、前者—レーニンの立場を、後者—我々の立場を攻撃型階級戦争といふのである。

このように、労働者国家の存在がプロの世界性の発展条件を成熟させ、発現（プロ独—世界革命）の契機を成熟させるのである。だから、単純に、瓜分せず、攻撃型階級戦争の内実—プロ独—プロというふうには、正確に言うこともある。過渡期世界論—攻撃型階級戦争は、革命の勝利の契機に關するものであり、実践との關係で極めて重大であり、我々の決定的な党派性である。

労働者国家の存在は、帝国主義の對外膨張を、国際反革命同盟—侵略反革命戦争の形態をとつて進行させる。このことにより、帝国主義—プロレタリアート、後進国人民武装解放戦争、労働者国家は、共通の攻撃対象を支えられ、接近、結合する。これがオニの意味である。

オニの意味は、迂回的である。帝国主義の不均等発展—世界分割、侵略反革命は、労働者国家内の矛盾を成熟させる。帝国主義の不均等発展は、世界の帝国主義諸国家—プロに於ける生産力の増大であり、それは、労働者国家群のそれより、はるかに飛躍的である。このことは、一國主義建設上の困難と結合し、スターリン主義の一口社会主義論—生産力理論によつて、一層加速されて、労働者国家内の経済的危機を成熟させ、労働者国家間対立を激化させる。このように、労働者国家群内部の危機、矛盾は、帝国主義に根がすものであり、その意味で、後進国階級戦争と同質である。これがオニである。

オニは複層的である。オニ自身は、危機の帝国主義—後進国、帝国主義的意識の同質性も、スターリン主義の一口社会主義論のもとでは、労働者国家間の経済的、政治的、軍事的対立へと転化させられる。さらにそれは、スターリン主義戦略（一口社会主義—体制同予自—二段階戦略）によつて、帝国主義—後進国人民武装解放戦争が、労働者国家の利害に從属させられ、労働者国家間対立へと動員されていくのである。

このことによつて、後進国人民、帝国主義—プロ人民の中に、帝国主義—マルジョアジーの反アイデオロギー、水質敏され、かつこの反アイデオロギー—階級解放戦争の對抗の中で、帝国主義—マルジョアジーへと転化させられ、

砕、ムトナム革命勝利の国際的共同闘争を
うことである。同時に、斗いの展望、帝国主
義の口口レタリアートの斗いの深化を通して
この国際的戦線を、世界革命戦争へ転化する
ことを提起しなくてはならない。

オ一、オ二の内要は、日米反革命同盟と日
米共同軍事行動を通じて自衛隊のアジア派兵
への策動を暴露することを媒介に、安保紛争
闘争と自衛隊の帝国主義軍隊化阻止闘争を結
合することを意味する。当面の斗争戦術は、
従って、基地撤去斗争と防犯府攻撃斗争であ
る。

オ三の内要は、帝国主義軍隊解体と全人民
の武装し赤軍である。来るべき危機の中で、
反戦斗争と経済斗争を結合し、革命的な反戦斗
争を推進し、この大衆斗争の革命的高揚を、
政治工作を媒介としつつ、自衛隊の分割へ導
くこと。独自に赤軍の中核を形成すること。

この上々の統一の中で、全人民の武装、赤
軍を実現することを悉く統一しておけばよい。
以上の経済斗争と反戦斗争の結合、革命的
反戦斗争の推進の中、我々は、九年安保
斗争の斗争戦術を、基地撤去斗争、防犯府は
じめ権力中枢への中央斗争、街頭からリド
戦として設定しうるのである。

以上の革命的な反戦斗争に胎現される政治斗
争、反戦斗争の政治方針と斗争戦術を認識し
かつまた、反戦斗争と経済斗争を結合し抜く
政治方針へ反斗争としての両者の組織化と
斗争戦術（街頭からリド戦、マツセンスト
ライク）を認識した上で、統一戦線戦術の問
題へ入っていかねばならない。

既に、全学連大会の概括の中を述べた如く
統一戦線戦術の中を、我々は、当面、この日
分野のうち、次のことを実現して行かんとし
ている。

①党形成上の問題から言えば、基幹産業アロ
レタリアートの中に我々の組織的ヘゲモニー
を拡大していくことである。何故なら、反戦
斗争の高揚と経済斗争の激化（それ故に、日本
帝国主義の経済的發展とそれを基礎とする社

会排外主義によって敗北させられてゐるとは
言えぬ）が、その条件を拡大しているからであ
る。同時に、来るべき日本帝国主義の侵略反
革命戦争と恐慌をたらす経済危機、政治危
機が、この社会排外主義の解体を不可避とし
ているからである。

従って、我々は、統一戦線戦術を媒介に、
革命的な反戦斗争、経済斗争と反戦斗争の結合を
推進しつつ、社会排外主義、社民の解体をつ
ァンダムにゆだねる（基幹産業アロレタリ
アートの崩壊を意味する）のではなく、これは
我々が行ない、基幹産業アロレタリアートの
中へ組織的ヘゲモニーを拡大していくのであ
る。我々は、かかる方向性を、地区反戦取
組反戦への活動と結合しつつ、青年同盟の結
成として貫徹していくのである。

かかる組織戦術を媒介として、10月以降反
戦斗争と9年一月訪米阻止斗争の中で、公明
協を軸に、反戦スト、政治ストを展覧して
るのである。

②党派斗争（他党派解体）の側面から（統一
戦線戦術は如何に提起されるか）
それは、基幹産業アロレタリアートの中へ
の組織的ヘゲモニーの拡大を社民、社会排外主
義の解体を通して展望することに規定され
次の如くなる。

民社党は、社会排外主義として固定化しつづけるので、現局面では困難であり、ロンドン会議の侵略反共論争の開始、恐慌という政治危機、経済危機の現実化をまたねばならない。しかし、この時点を民社党は必ず解体の危機、左右分裂（たこえれが）の都市小ブルへの立脚に表現されて右翼ファシズムへの傾斜が大きいつつ（とも）に頻するし、統一戦線戦術を媒介に解体し、この党の一方の立脚基盤（民権大企業）のしりアートを獲得しなくてはならない。

共産党も、当面、統一戦線の対象としては困難である。スターリン主義の解体は、労働者国家の世界革命の根拠地への転化を救済には不可能であり、世界革命の根拠地への転化を救済には不可能であり、世界統一戦線（世界赤軍を媒介に）のこのことを進めるなかでしか不可能である。さらに、既に述べた如く、共産党と我々は、現在の、社民（基幹産業）のしりアートへの組織戦術が、街頭政治斗争の組織化から始めることとして、同様である。従って、極めて極めて敵対関係にある。従って、我々が、社民との統一戦線戦術の中から、基幹産業（ロレタリアート）の中へ組織（ゲモノ）を拡大した結果としての可能性となるであろう。

従って、我々は当面、危機が既に顕在化している、社会党との統一戦線、この党系との党系との党系斗争、解体を追求するのである。それは、具体的には、反戦青年委員会に介入し、地区反戦を組織し、公学協（ロレタリアート）の中へ拡大していくのである。革命的な反戦斗争、反戦斗争と経済斗争の結合を追求し、ロレタリアート（反戦青年）の日請米阻止斗争の過程で、公学協の反戦ストの実現をめざすのである。

さて、我々は、既に危機が顕在化した社会党との統一戦線を反戦青年委員会を媒介にめざす訳であるが、その際、この社会党の危機を左から顕在化させてきたものが、

ロレタリアート以降の反戦斗争の爆発であることに注目しなくてはならない。従って我々は、社会党との統一戦線戦術、社会党の解体を促進する為には、この反戦斗争の爆発を切り開いてきた革命的左翼諸党の統一戦線を是非とも実現しなくてはならない。

革命的左翼諸党の統一戦線を胎現してきた三系全学連を媒介とした反戦青年委員会内部での革命的翼の結集の活動の総括がとられる。三系全学連の解体の基本的要因は、ロレタリ以降の斗争の前進が戦略論争を全面化する内、諸党系が、この統一戦線の中で、党系斗争（戦略論争）を保障しつつ、この統一戦線に結集する大衆の階級形成（それは当面、社会党との統一戦線、社会党の解体、基幹産業（ロレタリアート）の結集として存在する）を推し進めえなかつたことに起因する。この三系全学連や、革命的左翼による地区反戦の結集への指導が、自然発生的な、大衆組織次元に於て行なわれていたことに根をもつのである。

従って我々は、かかる統一戦線の中で、党系斗争と階級形成を保障するべき革命的左翼諸党の協定、党系間統一戦線の形成を提しなくてはならない。それは、ロレタリ反戦斗争（の年）日請米阻止斗争の過程に於ける「安保粉砕、日帝打倒、日本共産党、労働者協議会」（仮称）の建設として定められるであろう。

③以上のことを大衆の階級形成の側面からみると、それは何を意味するか？
具体的には、全学連の新たな統一と全日反戦青年委員会の全日地区反戦連合による再編（基幹産業（ロレタリアート）の反戦斗争へのゲモノ）が社会党から革命的左翼（粉砕）が「安保粉砕、日帝打倒、日本共産党と労働者協議会」仮称の下に進行することを意味する。
このことによつて、革命的な反戦斗争、経済斗争と反戦斗争の結合が基幹産業（ロレタリアート）の中に物質化していくこと、中央初力斗争、基地斗争、マツヤストライキが生産点を基礎に引き抜かれることを意味する。え

して、来るべき、日本帝国主義の侵略反革命戦争と恐慌が生みだす危機の中で、社会党、民社党が解体し、この統一戦線がソヴイエトへと発展し、帝国主義のアジアムとの間に、二重権力状況を形成するであろう。そして、このまゝの進展は、必然的に世界革命戦争を切り開き、世界党―世界統一戦線―世界赤軍の中に、労働者国家が口したりアートを引き入れられ、共産党の解体も結果するであろう。

従って我々は、安保粉砕、日帝打倒、日本共産主義者同盟設立（仮称）―全口地区反戦連合―全労連という日本に於ける反帝統一戦線を、世界的統一戦線の一環として位置付けていくのである。（もう口際反戦斗争集会）そしてこの世界的な反帝統一戦線に、「NATOの、安保粉砕、ベトナム革命勝利」のスローガンを口頭階級斗争の現局面（ベトナム反戦斗争口頭反帝同盟粉砕斗争）に於いて提起していくのである。

10/11斗争の方針と展望（略）

①スローガン

①NATOの粉砕 安保粉砕、ベトナム革命勝利

②日本帝国主義のアジア派兵への道
1170年安保を粉砕せよ！

③米軍基地撤去、米軍政打倒、日帝の侵略反革命前線基地の粉砕！

④自衛隊の帝国主義軍隊化阻止、3月侵略反革命、米軍抑圧演習阻止！

⑤1月佐藤訪米努力阻止
⑥10/11安保粉砕、全口学生ストライキを打ちこもう！ 全都の学友は防衛力への戦士のデモに箱集せよ！

⑦安保粉砕、日帝打倒の反帝統一戦線を建設せよ

⑧戦術 ストライキ ↓ 防衛力への

大衆的闘争

③展望 10/11斗争を10年安保の内閣が日帝のアジア侵略反革命戦争であることを全人民の前に提起し、防衛力を政治焦点とする。

この上で、10/11斗争三大選挙の日に、全口結集による再度の防衛力闘争を展望し、69年1月18日の佐藤訪米阻止斗争へ前進すること。